

ひかりのこ

5月園便り

認定こども園
聖ミエル幼稚園
2021年4月23日

月主題：動き出す

「人を好きになる」

4月9日に入園式が終わり、さあ、いよいよ12日からは年少の子どもたちがお母さんと離れて登園してきました。大きな声で泣く子、玄関で先生に抱っこされている子も、ちらほらいました。でもそんなに多くはありません。そこには先生たちの配慮がたくさんありました。

昨年度の3学期から、その配慮は始まっていました。幼稚園バスの朝の添乗を担当する和美先生は、3学期に入るとできるだけいちご組3歳コースに入るようにしていました。少しでも子どもたちに覚えてもらって、4月からバスに乗る子どもたちがお母さんと離れても安心できるように工夫したのです。

そして、12日からの朝のバスには、いちご組の担任の大好きな三奈子先生と、いちご組によく来てくれた大好きな和美先生が添乗しました。きっとこの二人を見て、「ホッ」とした子どもたちやお母さん方もいらっしやっただのではないのでしょうか。

それでもやっぱり悲しくなるお友達を、玄関で先生たちが優しく、明るく迎え入れます。お部屋に入ると優しい担任、副担任の先生たちが笑顔で迎えてくれます。

こうして小さな子どもたちは、大好きなお母さんから離れても、幼稚園という小さな社会の中で、好きな人を増やしていくのです。はじめは担任の先生、クラスのお兄さん、お姉さん、そして同年齢のお友達。豊かな豊かな人との関わりを子どもたちは自分から求めていきます。こうやって人は社会の一員として成長するのです。

昨年、一昨年不安そうにしていた年中さん年長さんたちは、小さなお友達の悲しみが一番わかる良き理解者です。そっと手をつないでくれたり、涙を拭いてくれたり、とても素敵に成長しています。

そして降園の時間。玄関から外で待っているお母さんを見つけて、小さな子も大きな子も「お母さん、お母さん。」と嬉しそうにしています。外の社会も面白いけれど、やっぱり帰る場所はお

家なのです。そんな子どもたちの一つ一つに感動する園長です。何もかも動き出す春はやっぱりいいですね。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「失敗する自由」

先日、聖ミカエル教会の礼拝で、失敗する自由、というお話しをしました。私の母が入居している施設の様子を本人から電話で聞き、少し考えさせられたからです。

老人施設はどこでも、入所者が怪我をしたり、病状が悪化しないように細心の注意を払います。投薬管理もその一つです。母親はまだ頭がはっきりしていて、自分の薬を間違わずに飲めるのですが、施設は万が一を考えて、食後に看護師が横に立って、飲み終わるのをじっと見ているというのです。母親は、じっと見られている方がよっぽど緊張して間違えると言います。これを想像して私は思わず笑ってしまいました。安全のために、間違いや失敗がないように、いつも誰かが先回りして管理するというのは、やむを得ないとはいえ、辛いものがあります。

神様が人間を造られた時、意のままに動くロボットのようにではなく、神様に背くような考えさえも抱く自由を与えました。言い換えれば失敗する自由、間違える自由です。そして人は、必ず失敗し、間違い、それを克服して自立していく存在です。だから、子どもたちが日々、いろんな失敗や間違いを犯すのは正しいあり方なのだと思えます。問題は周りの大人たちが子どもの失敗をきちんとフォローしてあげられるか、ではないのでしょうか。そもそも大人だって、いまだに失敗と間違いを繰り返しているはず。子どもたちの失敗する自由、間違える自由を大切にしたいと思います。

チャプレン 司祭 下澤 昌